



サラダバー

井 口 昭 久

土曜日の昼にとんかつ屋へ一人で出かけた。その店はサラダバーがセットになつていて割安のためか流行つていた。席に着いた時は午後1時を過ぎていた。案内してくれた店員に「ハンバーグ」を注文した。「ちょっとと待つてください」と、その店員がいなくなると、違う人が注文を取りにきた。その人に「サラダも」と言うと「サラダバーですね」と言つて去つた。サラダバーにはご飯も並べてあつた。

私はサラダバーからサラダとご飯を持って去つた。サラダバーにはご飯も並べてあつた。テーブルに並べて待つていてテー

前の席にいた老人もサラダを目の前にして

待つていた。斜め前方に座つていた40歳代の男性はサラダバーからサラダとご飯を持ってきて食べ始めていた。1時10分には子供一人を連れた家族が入ってきて私の横に座つた。

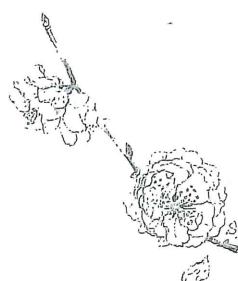
15分ほどで、前の老人にはステーキが届いた。

そろそろ私のハンバーグも届くだらうと思つていた。口腔内には唾液が出来ていた。人の唾液は一日で1・5トリップも出るんだよ」と講義で学生に教えたことを思い出していた。私のハンバーグは30分を過ぎても届かなかつた。「ひょつとして忘れられているのでは

ないだろうか?」という疑念が生じた。

しかし斜め前方の男性は相変わらずサラダとご飯だけ食べていてステーキもハンバーグも届いていなかつた。取りあえず仲間外れにされてはいないとthoughtた。

外を見て気持ちを紛らわそうとしたが、窓ガラスの下半分は化粧紙で覆つていて街路を眺めるることはできなかつた。上の半分から外を見上げると雨粒が落葉樹の葉から葉へ伝わるように落ちていた。



空腹に失望が加わると怒りが生まれた。

「ちょっと、ちょっと」と私はウエイトレスを呼んだ。「どうなつてたの?」と聞くと、年配のウエイトレスを連れてきた。「お客様は単独サラダバーでしたよね」と念を押された。

最近その店では「単独サラダバー」というメニューが加わつたことを初めて知つた。そのメニューにはステーキもハンバーグも含まれていないのでだつた。

そういえば斜め前方の男性はサラダ二皿とご飯だけを食べて出て行つてしまつていた。

私はすでに1時50分であった。

しかしウエイトレスは私より後から来て横に座つた家族の席へ油の跳ねている鉄板を持つて近づいてくるのが見えた。私はナプキンを膝に下ろした。

しかしうエイトレスは私より後から来て横に座つた家族の席へ油の跳ねている鉄板を持つて近づいてしまつた。